

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	武雄北中学校	B おむね達成度である C やや不十分である D 不十分である
1 前年度 評価結果の概要	・本年度取り組んだ家庭学習の内容や方法について見直しを図り、「810大作戦」を継続し、さらに学習習慣の定着を目指す。そして、集団での学び合い(授業)と個の自學力(家庭学習)をタブレットをうまく使いリンクさせていきたい。 ・本年度は、各種行事においてお互いが認め合い支え合う人間関係づくりに力を入れた。今後も生徒会を中心に様々なイベントを企画させ主体的・協働的風土を醸成し、心身とともに健闘する生徒の育成を図りたい。 ・不登校生徒等の「気になる生徒」について対応はよしているものの、共通理解が固っていないないと感じる職員がいる。次年度は、定期的に共通理解を図る場が多く設定し、全体での共通理解、共通対応を図りたい。	

2 学校教育目標 「自ら学びを求める人」「志をもちゆめ実現を目指す人」「心身ともに健康な人」

3 本年度の重点目標
・自分で考え方判断し、決定し自ら行動する資質の育成
・たくましく生きぬくための心身の健康と体力の強化

4. 重点取組内容・成果指標		中間評価		5. 終期評価	
(1) 共通評価項目		中間評価		終期評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (達成目標)	具体的取組	達成度 (評価)	達成度状況と見通し
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実施	●学力向上と評議会シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・全職員がマイプランの達成度を振り返ることができるように、振り返りシートを毎月配布する。	A	・全員がマイプランの達成度を達成することができている。
	○家庭学習の定着を目指した分かりやすい授業の実践	○授業の振り返りでタブレットドリルを活用し、学年評議会シートにおいて、60%以上の生徒が810大作戦を達成できたと回答する。 ○各教科担当が、生徒が自分の考えを説明する場面を毎時間1回以上設定する。	・通りの会で授業の振り返りを行い、発表する。 ・タブレットドリルを授業と関連させて自動的に取り組みを促す。 ・説明力を付けるために授業の中に、自分の考えを説明する場面をつくる。	B	・810大作戦を達成できた生徒は61%であった。毎回、学年評議会シートドリルを通じて、生徒に振り返りの会を行っている。 ・説明力を付けるために授業の中に、自分の考えを説明する場面をつくる。
●心の教育	●児童生徒が、自他の命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正直感、感謝の心など、豊かな心や自身に付ける教活動	○適切に問うるアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒75%以上	・適切な授業において、学科全体で意見を出し合うなどを通じた生徒75%以上	A	・夏季休業を中心にタブレットを利用した家庭学習に取り組む、内容を工夫した。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○気になる生徒や変化のあった生徒について、生徒がいる間で実際に対応し、対応についての共通理解が図られていると回答した教員90%以上	・生徒指導協議会で意見を出し合うなどを通じて、生徒がいる間で実際に対応し、対応についての共通理解が図られていると回答した教員90%以上	A	・適切に問うるアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒は81%(学年評議会評議会)
	○生徒が志をもつ、夢や目標の実現に向けて自分で努力判断し、自ら行動するための教育活動	○「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした生徒70%以上	・行事等に個人目標を記入させ、振り返りをさせ、目標に向けて自己実現、達成感や満足感を味わえるよう支援する。 ・生徒が目標を見据え、最後の課題について考えてみたために、各学年で進路選択会を実施させる。 ・総合的な学習の時間で、地域のことを取り、地域のことを発信できるような学習内容を各学年で工夫する。	B	・生徒指導協議会での、共通理解と共に、日常における生徒の変化や気付き、問題発生時と連携を図り、状況に応じて対応することで、これまでよりも効率的で柔軟に対応できる。
●健康・体力づくり	●「運動習慣の改善や定着化」	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間に420分以上になる生徒85%以上	・自分の足で走り下校するように指導する。 ・部活動開始を機会の合図7~15分以内にスタートできるように全職員でサポートする。	B	・体育大会などの大きな行事では、自門ノーや、キャラリアースポーツなどの自分の名前や姓を書くことができる。 ・生徒が学校に応じた進路の学習を行ない、少しずつ自分に合った方向で考えられるなり得る夢や目標をもつて、将来の夢や目標についての生徒が肯定的な回答を示す。
	●「健ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒55%以上	・食に関する専門的な知識や日々の生活で役立つことを、各学年で進路選択会を実施する。 ・朝食摂取の確度は達成できだが、栄養バランスに沿った指導ができていない生徒がいるため、朝食バランスの改善の意識は薄らぎつつある。	B	・栄養教育など大きな行事では、個々の目標をもつた各年代で、自門ノーや、キャラリアースポーツを使って、振り返りを記述させることができる。 ・生徒たちが、将来を見据え、各学年、進路や組合を使いつぶつと自分に合った進路について考え、将来の夢や目標をもつて、将来の夢や目標についての生徒が肯定的な回答を示す。
●実務改善・教職員の働き方改革の推進	○健ましい生活習慣の形成	○学習や運動に計画的に取り組むとともに、余暇を効率活用しながら生活リズムを整え、十分な睡眠を確保できていると答えた生徒70%以上。	・生活習慣アンケートの実施。 ・生活習慣アンケートについての見直しを行う。	B	・雨天時の保護者の送迎が多い、今年は、下校指導が充実して、生徒の運動量が増加している。 ・朝食摂取から心配の会までの時間が長く、部活動開始の時間が遅い。
	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教務委員会規則に場外時間外勤務時間の上限を職員全員が遵守する。	・タイムレコーダーを活用し職員の毎月の時間外勤務時間を把握し適切な指導を行う。 ・挨拶やかけあい大切にし、お互いが更守り合う組織を作を行う。	A	・定期は罰則で時間外勤務時間が長くなってしまったが、ほとんどどの職員が上限を遵守している。 ・どの職員も必要として年次休暇を取っている。 ・教員個々の持つやさしさなどの相談がやりやすい雰囲気はできてきた。
(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目		重点取組	中間評価	最終評価	学校評議会評価
主な担当者					
学力向上担当 教務主任					
道徳教育担当 教師					
生徒指導担当 教育委員会					
特別活動主導 組合的な学習 主任					
体育主任 食育担当					
生徒指導 担当					

評価項目	直面取組内容	成果指標 (数量指標)	具体的取組	実施計画			実施結果	評価	今後の課題	主な担当者
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	進度度 (評価)				
C学校経営・教育活動	○「夢プロジェクト」の推進	○武道北中の員として、「夢プロジェクト」に取り組んでよかったです」と回答した生徒79%以上	・生徒全員で、学校や地域に貢献し、達成感を得ることができるような活動を行う。	A	・アンケートで、「夢プロジェクトに取り組んでよかったです」と回答した生徒は73%だったが、について肯定的な回答した生徒は82%だった。	A	・アンケートで、「夢プロジェクトに取り組んでよかったです」と回答した生徒は82%だったが、について肯定的な回答した生徒は82%だった。	・ローナの肯定的な意見もあり、地元への貢献活動は少なかったが、できる活動を生徒主体で取り組むことができた。	・いいづつ頑張れましたと思ふ。 ・コロナの影響で学年を見る機会が少なく残念であった。 ・引き続ぐ場合は、貢献活動はじめしていただきたい。 ・50周年行事への取り組みに感謝している。 ・学校ではタブリット教育、家でゲームと一緒に対面教育が少なくなっている、「命の大切さ」を感じさせてもらおうと教えてほしい。 ・「夢プロジェクト」は北中の取り組みとして永遠に続けてほしい。	A